



みを紹介しますが、最終的には高校生たち自身が提言をまとめて能勢町へ提出する、すなわち社会に対してアクションを起こすということを目標にしています。

昨年度からこのプロジェクトが始まっています。地域魅力化クラブが中心となって、まずどんな e-bike を提供してもらうかを検討しました。初年度は 10 台の e-bike を提供することになりましたが、それをどのように生徒に貸し出すかということや、利用のルールを決めてもらいました。基本的には e-bike を 1 人 1 台貸し出すことにしましたが、利用の希望を鑑みて、そのうちの 1 台は平日はある生徒が通学に使い、休日は域外から鉄道とバスに乗って、その先にこの自転車を使って高校まで行くというかたちで、2 人でシェアリングしているとのことでした。最近、日本でもモビリティのシェアリングの実施やラストマイルのモビリティの確保の議論が活発になっていますが、それを高校生たち自身で考え出して、実行に移したということに私は非常に驚きました。そして、プロジェクトに関わる大学の先生方と一緒に、さまざまなワークショップを行いました。私のほうでは自転車の利用環境、つまり道路のインフラについてどのように検討していくべきか、安全に正しく運転するためにはどのようにしていくべきかといったワークショップを実施しました。そして本年度は、こういったさまざまなインプットを受けた上級生が新生生に対して安全運転講習を実施するとともに、私の担当する自転車利用環境や効果的な安全運転の促進方法、安全運転教育といったことを検討するワークショップも実施しております。



それでは、私が担当しました自転車利用環境を検討するワークショップの概要について紹介します。私が何を伝えたいかと言いますと、高校生がこんなにもパワーを持っているのだということです。彼らは交通弱者と位置づけられておりますが、彼らになにかものを与えるということではなく、彼ら自身にきっかけと環境を与えてあげると、社会にインパクトをもたらさうのだと思っております。

こちらのワークショップは、前半と後半の 2 つに分けるかたちで設計しており、前半部分では通学路を安全にする、あるいは楽しく走れるというような、マイナス面をゼロにするような視点、そして「楽しく」ということで、ゼロをさらにプラスにするような視点、この 2 つのテーマについてどんな方法が考えうるかということを検討してもらっています。全部で 4 つの班があるのですが、2 グループずつに分かれて、これらの方法を検討してもらっています。後半は、その班員をすべて変えまして、前半で話した案をブラッシュアップしながら、最終的にどういった案が一番対応すべき優先順位が高いかということを議論して、実際に町に対してどのような提案をしようかということを決めています。

まず実際に通学路に対してどんな魅力があるか、そして危険な箇所があるかというのをたくさん挙げてもらいました。そしてグループでの議論から得られた通学路の印象を表にまとめました。これらを踏まえて、1 班と 2 班は、通学路の魅力を向上させるためにはどういった案が必要か、3 班と 4 班は、通学路上の危険を低減するためにはどういったことが必要かということ、自分たちでできること、自分たちが他の人と協力してできること、能勢町役場ができること、あるいは他の関

係者ができることというなかたちで、1班ずつ提案してもらいました。魅力を向上させるというところでは、名月峠という急な峠があるのですが、ここは見通しが悪くて危険だという意見がある一方で、時期によっては非常に景色がきれいなところなので、こういったところを SNS にアップして「魅力としても知ってもらうことが大事だよ」というような、当事者であり若者ならではのいろんな意見が出ました。後半は、班員を変えて改良案を再検討するとともに、どの改良案を優先的に実施すべきかを議論してもらって、4班からそれぞれ2つつ案を出してもらいました。

### プロジェクトの成果と展望

こちらの8つの案に対して、最終的に参加者している高校生と一部の社会人が、どういった案がいいかということ投票してもらい、町に提案する案を決めました。高校生自身が選んだのは除草、草を刈ることでした。これは私にとっては衝撃的で、自転車利用環境の話としてよくあるのは、自動車レーンのような走行空間を確保するとか、安全施設をつくるとか、あるいは安全教育をするというように傾きがちだと思いますが、高校生の視点からすると、走行空間を確保するためには、安価でできるということも含めて除草が一番いいという提案が出ました。ただし除草自体危険を伴う可能性があるので、町と調整しているところですが、なんらかのかたちでできるだけ早く実施したいと思っています。興味深いのは、高校生自身がこういった除草活動に参加することによって、地域住民からも高校生が社会のために活動しているということを見てもらえ、これが地域との関係性づくりにつながり、さらなる活動につながるという意図も含んでいる点です。

ワークショップ開催後の高校生の意見としては、参加した全員が「意識が変化した」と回答しました。今後、ワークショップの成果に基づき、能勢町に対して具体的な提言をする際に積極的に参加したいかということには、半分以上の方は「参加したい」という回答でした。

まとめですが、高校生がバスやタクシーのような公共交通を考えるには対象のスケールが大きすぎますが、e-bike という自分で動かせるようなものについては、結構いろいろなことに考えが及ぶのだなと思いました。もう1つは、e-bike を導入することによって通学可能範囲が拡大して、かなり遠くからも能勢分校に通学できるようになったという声もあり、高校サイドとしても非常に大きな影響があったのではないかと思います。

私をご紹介したとおり、高校生自身のパワーを感じましたし、今後もさまざまな活動ができるというふうに確信しています。今後は、小中学生に安全運転講習を実施するための企画や、あるいは町の問題解決・活性化のために e-bike を通学以外にも使っていくようなワークショップも実施していくので、今後の取り組みにぜひご期待いただければと思います。

---

■このレターは、9月7日に開催いたしました第24回 UII まちづくりフォーラムの内容を要約したものです。

---

発行元・問合せ先 公益財団法人都市活力研究所  
 〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号  
 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7F  
 TEL 06-6359-1322/FAX 06-6359-1329